



VSCD-097

## John Miller Biding My Time

1960年代のピークを迎えたアメリカン・フォーク・リヴァイヴァルは、ボブ・ディランやジョン・バエズ、P P & Mといった大物スターを輩出したが、ジョン・ミラーも捨て難い存在だった。ブルーグラスのベース奏者を経て、ラグ・タイムの弾き語り歌手として注目された。小粋なヴォーカル、スウィングーなギターに乾杯!



PCD-5144

## Dave Van Ronk Folksinger

ディランのヴォーカル(独特のダミ声)に多大な影響を与えたのが、ニューヨーク・フォーク・シーンの重鎮デイヴ・ヴァンだった。50年代からブルース、ジャズ、ジャズなどをうたい、グリニッチ・ヴィレッジの人気者となり、白人ブルースの第一人者となった。ディランのルーツを探る上で格好のアルバム。



VSCD-096

## Russ Barenberg Cowboy Calypso

都市部の若者によって結成されたモダンなブルーグラス・バンド、カントリー・クッキングの元ギタリストが、ラス・バレンバーグという男だ。クラレンス・ホワイトの研究者としても有名。本盤はブルーグラス・ギターがこんなにもポップになれるのか?と話題を集めた傑作。メロウな「カウボーイ・カリブソ」が最高。



AMCY-2992

## Phil Ochs All The News That's Fit To Sing

60年代の中盤、ディランと人気を分かち合ったことがあったフィル・オクスの代表作。社会派ソング(プロテスト・ソング)の旗手と騒がれただけあって、声高にうたう様は圧巻だ。ウディに捧げた「パウンド・フォア・グロウリー」で涙。



VSCD-263

## The Tarriers The Tarriers

ニューヨーク・フォークの先駆者は、ビート・シーガーがリーダーを務めたザ・ウィーヴァーズが有名。だが、パンジョー、ギター名手エリック・ダーリング在籍のザ・タリヤーズも異彩をはなつたグループだった。ハリー・ペラフォンテで有名な「バナナ・ボート・ソング」のオリジナルがここで聴ける。



VSCD-130

## Mississippi John Hurt 1963 Folk songs & Blues

ラヴィン・スプーンフルのジョン・セバスチャン、ボブ・ディラン、ライ・クーダーその他が、少なからず影響を受けたミシシッピ・ジョンの知られざる傑作盤が本作だ。ほのぼののヴォーカルと、黒人ブルースマンには、お洒落なフィンガー・ピッキング・ギターが高く評価された。かの高田渡氏も愛聴したとか。



WPCR-10718

## Ramblin' Jack Elliott Young Brigham

ボブ・ディランの兄貴格ランブリング・ジャック・エリオットの本格的なフォーク・ロック作品。プロデューサーは、異色のフォークーとしてお馴染み黒人ブルース・ラングホーン。ウディ・ガスリー、レッドベリー、ティム・ハーディン、ディランの名作カバーが聴き所。



VSCD-137

## The Holy Modal Rounders Allenged In Their Owntime

ニューヨークのアンダーグラウンド・フォークのカリスマとして知られているホリー・モダルの超傑作盤。伝説の白人女性リヴァイヴァル・ブルース歌手カレン・ダルトンがゲスト参加。ディラン、アレン・ギンスバークが絶賛しただけあって、独特なアシッド・フォーク・グルーヴがたまらない。ファグズ狂にもお奨め。